資　料

2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習」に向けた授業構想

CLASS CONCEPT FOR LOWER GRADE COMMUNITY HEALTH AND HOMECARE NURSING PRACTICE IN THE 2022 REVISED CURRICULUM

髙橋由美・真溪淳子・小林淳子
TAKAHASHI Yumi, MATANI Junko, KOBAYASHI Astuko

キーワード：地域・在宅看護論実習，フィールドワーク
Key words：Community health and Homecare Nursing Practice, Field Work

Ⅰ．はじめに

2022年度改正カリキュラムでは、「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」と名称を変更し、地域に暮らす人々の理解とそこで行われる看護についての学びを強化していくことが求められている[1]。また「地域・在宅看護論」は療養者を含めた地域で暮らす人々を対象とする専門分野の科目であり、すべての看護の土台であるとして基礎看護学の次に位置づけられ、低学年次から多様な場における実習が推進されている。看護師養成3年課程の旧指定規則には地域看護学は含まれておらず、2022年度改正カリキュラムへの対応として新たな教授法が必要となるが報告例は少なく［2. 3]、独自の取り組みや実習フィールドの開発が急務となっている。筆者らは、2021年度の在宅看護論代替実習において、フィールドワークをとり入れたことによる学修成果を質的研究により明らかにした［4]。学生はフィールドワークを通して、地域や暮らしを把握することが在宅看護の目的である療養者・家族のQOL維持・向上支援につながることを学んでおり、今後はフィールドワークをアクティブラーニング型授業に位置づけ、低学年次から段階的な授業設計の基に地域・在宅看護論実習の教授法を検討することが課題となっている。

以上のことにより本稿では、フィールドワークによる地域アセスメントに関する文献検討より知見を整理し、2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習」に向けた授業計画を構想することを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1．用語の定義

1）フィールドワーク

先行文献［4］に基づき、人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどを観察する地区視診も含めてフィールドワークとする。

2）低学年次の「地域・在宅看護論実習」

看護師養成3年課程の1・2年次に行う地域・在宅看護論実習であり、本学では「地域・在宅看護論実習Ⅰ」とする。

２．文献検討

１）文献検索

文献検索は、医中誌Web新バージョンを使用し、キーワードとして「地域アセスメント」「地域診断」「地区視診」に「看護師養成３年課程」を掛け合わせたが、該当するものは０件であった。続いて「フィールドワーク」に「看護師養成３年課程」を掛け合わせると２件［3. 5］検索されたが、看護の視点を持って地域を見て歩き、地域をアセスメントするものではなかった。

２）ガイドライン等による知見

文献検索結果としては、看護師養成３年課程における地域アセスメントに関する先行研究はなく、改めて、保健師教育と看護師教育における地域アセスメントの活用範囲の違いを関連するガイドライン、資料、図書等に基づき整理し、2022年度改正カリキュラム「地域・在宅看護論」教授法の方向性を確認することとした。

Ⅲ．結果

１．地域・在宅看護（看護師教育）と公衆衛生看護（保健師教育）における地域アセスメント

日本看護学校協議会は、地域・在宅看護論は、地域そのものを看護の対象とするのではなく、あくまで、個人・家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を理解するものとしている［1］。一方、公衆衛生看護の対象はあらゆるライフステージにある、すべての健康レベルの個人と家族、およびその人々が生活し活動する集団、組織、地域などのコミュニティであり［6］、個人を含む地域そのものが対象となる。いずれの場合も、健康や生活に影響をもたらす地域の理解は不可欠であり、地域アセスメントは、在宅看護では個人・家族を対象としたケアマネジメントを行う際に、公衆衛生看護では集団やコミュニティを対象とした地域診断を行う際に有効である。

しかしながら、保健師教育における看護診断に関する実践報告［7. 8. 9. 10］は数多く報告されているものの、看護師養成３年課程において地域アセスメントを授業に取り入れている報告は見当たらず、看護学士課程における実践報告［13］も一報のみであった。併せて、看護師が地域を理解することの必要性が謳われた2022年度看護基礎教育カリキュラム改正における「地域・在宅看護論」のテキストを確認しても、地域アセスメントに関する理論と方法を教示しているものは１冊［12］のみであった。ほかに地域アセスメントに必要な情報収集項目が記されたものは２冊［13］［14］あったが、具体的方法については示されていなかった。

２．2022年度改正カリキュラム「地域・在宅看護論」教授法の方向性

臺ら［12］は、地域・在宅看護活動を、他職種と連携して、適切な保健・医療・福祉を提供し、予防や地域療養、QOLの維持・向上の実現を視野に入れた個別・家族に向けた看護から、生活圏を基盤とした健康で安全・安心な地域づくりを目指した地域包括ケアシステムの構築に貢献する、地域全体を視野に入れた看護活動と定義している。地域・在宅看護活動の実践には、「生活や地域を理解する」ことが土台となり、地域アセスメント力の育成が求められている。

先行研究［4］では、フィールドワークによる学修成果を授業に活かし、低学年次より段階的に教授することにより、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、QOL維持・向上を支える能力を強化し、さらに地域包括ケアシステム等を推進するための能力を強化することにつながる可能性があることが示唆されている。また、フィールドワークの教材として、金川［15］の地域看護診断の技法の一部である「地区視診ガイドライン」を参考に、「フィールドワークガイドライン」および「フィールドワーク記録」を作成しており、継続的な使用が可能である。

加えて、糸賀ら［16a］は、逆向き設計論に基づき、到達目標のルーブリック（評価指標）作成からカリキュラム設計に向ける手法を提示している。元田［16b］は、在宅看護論領域のゴール設

定とルーブリック（評価指標）、ゴールに到達するための科目の構造化について紹介しており、低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業構想の手法として活用可能である。

３．2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業構想

文献検索・ガイドライン等を整理し、これまでの知見を基に2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業計画を構想した。

１）2022年度改正カリキュラム「地域・在宅看護論」の科目の構造と授業概要

2022年度改正カリキュラムにおける「地域・在宅看護論」の科目の構造と授業概要を（図1）に示す。

低学年次の「地域･在宅看護論実習Ⅰ（1単位）」は、2年次の後期初旬に集中型で配置している。既習の科目は1年次後期に「地域・在宅看護概論Ⅰ（1単位）」、2年次前期に「地域・在宅看護援助論Ⅰ（2単位）」が配当されている。科目の順序性により従来の在宅看護論を学ぶ科目として「地域・在宅看護概論Ⅱ（1単位）」と「地域・在宅看護援助論Ⅱ（2単位）」が続く配置となり、3年次には「地域・在宅看護論実習Ⅱ（2単位）」が通年で他の5領域実習と並行して配置されている。

２）低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業構想

「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の到達目標としてルーブリック（評価指標）を作成し、その指標に向けた授業構想として、「地域・在宅看護概論Ⅰ」及び「地域・在宅看護援助論Ⅰ」の授業を組み立てることとした。

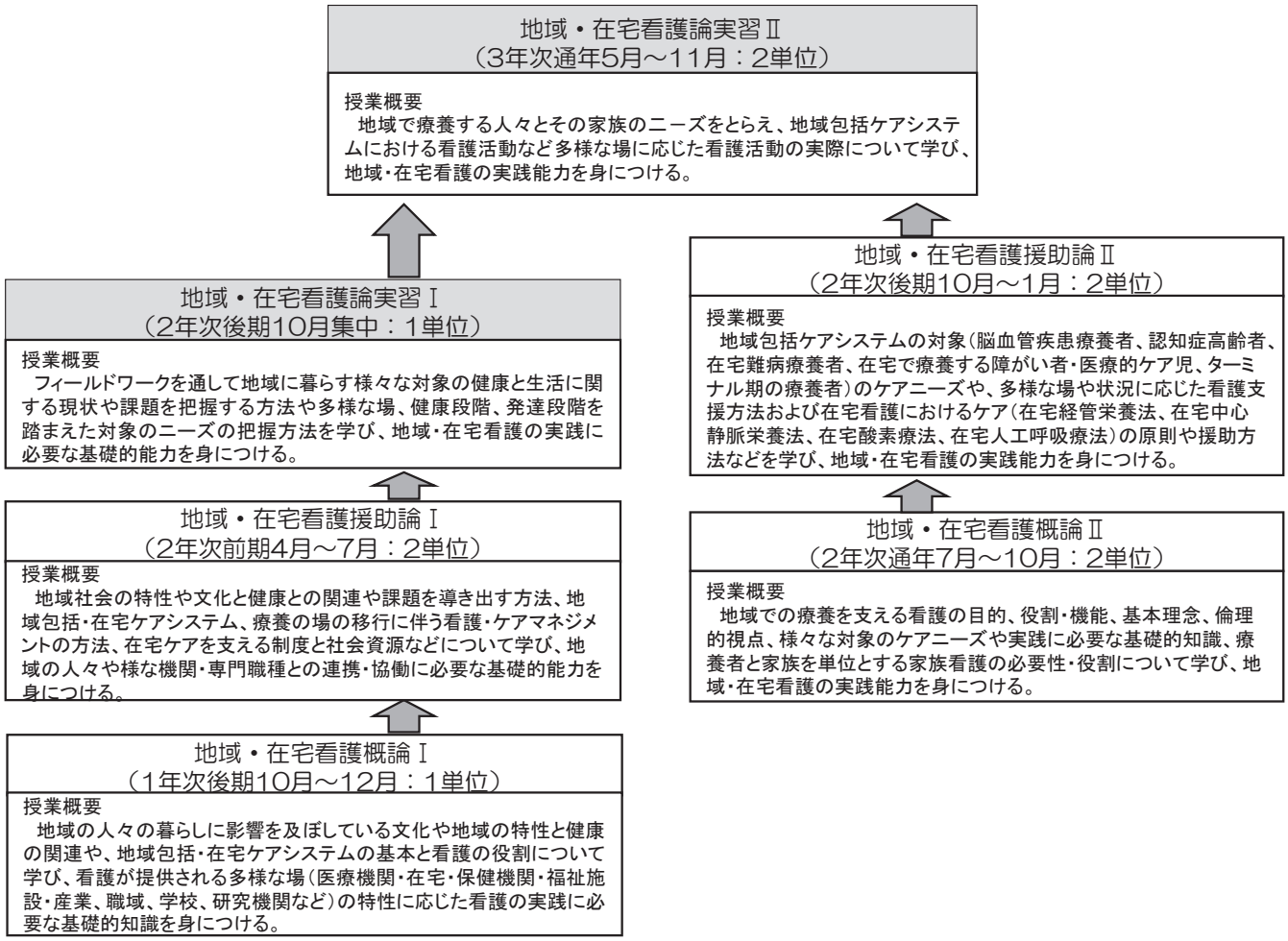

図１　2022改正カリキュラム地域・在宅看護論の科目の構造

(1)「地域･在宅看護論実習Ⅰ」のルーブリック（評価指標）

「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の実習目標、到達目標、評価対象および評価尺度を設定した。

≪実習目標≫

① 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解できる

② 地域に暮らす様々な対象の活用可能な資源を理解できる

≪到達目標≫

- フィールドワークを通して地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題を整理しまとめることができる
- 学修成果発表会で学びを共有し、必要な看護支援について考えることができる
- 地域の母子支援施設の機能や活動内容が理解できる
- 地域の障害福祉サービス事業所の機能や活動内容が理解できる
- 老人福祉センターの役割機能や利用者とのコミュニケーションを通し、活用可能な新たな資源を考案することができる

≪評価対象≫

評価対象は、日々の実習記録、フィールドワーク記録、カンファレンスの状況・記録、学修成果発表記録、課題レポートとした。

≪評価尺度≫

評価尺度は、十分達成できた、達成できた、あと少し努力が必要、努力が必要の4段階評価とした。

(2)「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の内容・方法

主なスケジュールと内容を（表1）に示す。

実習施設は、地域で暮らす高齢者を支える老人福祉センター、母子支援施設、障害福祉サービス事業所とし、各施設における実習およびフィールドワークによる地域アセスメントを行う。

3）「地域・在宅看護概論Ⅰ」および「地域・在達看護援助Ⅰ」の授業構想

「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の実習目標・到達目標の達成に向けて、「地域・在宅看護概論Ⅰ」および「地域・在宅看護援助Ⅰ」の到達目標および授業計画を作成した。

表1　地域・在宅看護論実習Ⅰ　スケジュール

日程	場所	時間	実習内容
	学内	9：00～12：00	・実習オリエンテーション
実習1日目	学内	9：00～17：00	・グループオリエンテーション ・フィールドワークに関する事前学修・計画立案 ・地域機関の既存情報収集 ・カンファレンス
実習2日目	施設	8：00～16：00	・母子支援施設（役割・利用状況と課題） ・フィールドワーク ・カンファレンス
実習3日目	施設	8：00～16：00	・障害福祉サービス事業所（役割・利用状況と課題） ・フィールドワーク ・カンファレンス
実習4日目	施設	8：00～16：00	・老人福祉センター（役割・利用状況と課題） ・フィールドワーク ・カンファレンス
実習5日目	学内	9：00～17：00	・学修成果発表会

※3日間でローテーションを組む

(1)「地域・在宅看護概論Ⅰ」到達目標と授業計画

到達目標を以下の4点に設定し、地域で暮らす人々と家族を支える地域ケアシステムや多様な場の特性に応じた看護の役割を理解するための単元構成とした（表2）。

≪到達目標≫

- 地域・在宅看護の成り立ちや社会背景を理解できる
- 人々の暮らしに影響する文化、環境、地域社会の背景・特性と健康の関連について理解できる
- 地域ケアシステムの基本と看護の役割について理解できる
- 多様な場の特性に応じた看護について理解できる

(2)「地域・在宅看護援助論Ⅰ」到達目標と授業計画

到達目標を以下の4点に設定し、地域社会の特性や文化と健康との関連や課題を導き出す方法として、フィールドワークによる地域アセスメントの手法を理解し、さらに地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントや多職種連携について理解を深めるための単元構成とした（表3）。

≪到達目標≫

- 人々の暮らしに影響する文化、環境、地域社会の背景・特性を把握し、健康との関連や課題を導き出す方法を理解できる
- 地域包括ケアシステム、在宅ケアシステムを理解し、療養の場の移行に伴う看護・ケアマネジメントの方法について理解できる
- 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解できる
- 地域包括ケアシステムの中での連携・協働について理解できる

表2　地域・在宅看護概論Ⅰの授業計画

回	授業計画
1	地域・在宅看護論の成り立ちと社会背景
2	健康と社会・生活
3	個人・家族の健康支援
4	環境・地域特性と健康
5	地域・在宅看護を展開するための基本理念
6	多様な場における看護活動①行政、学校
7	多様な場における看護活動②病院、在宅、産業
8	地域ケアシステムと看護

表3　地域・在宅看護援助論Ⅰの授業計画

回	授業計画	回	授業計画
1	地域包括ケアシステム	9	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源②
2	療養の場の移行に伴う看護	10	フィールドワーク（地域アセスメント）演習① 基礎的知識・技法　グループ作り
3	退院支援・退院調整	11	フィールドワーク（地域アセスメント）演習② 対象事例・地域の情報収集
4	ケアマネジメント①	12	フィールドワーク（地域アセスメント）演習③ フィールドワークの実際
5	ケアマネジメント②	13	フィールドワーク（地域アセスメント）演習④ フィールドワークの実際
6	多機関・多職種との協働における看護の役割①	14	フィールドワーク（地域アセスメント）演習⑤ カンファレンス　発表準備
7	多機関・多職種との協働における看護の役割②	15	学修成果発表　まとめ
8	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源①		

Ⅳ．考察

2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業構想から、今後の授業展開に向けた展望と課題について考察する。

1．低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた授業構想と展開に向けた展望

2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」にフィールドワークによる地域アセスメントを取り入れ、基礎的知識・技法の習得を含めた段階的な授業計画を構想した。

文献検討を基に「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の到達目標よりルーブリックを作成し、その評価指標を基に「地域･在宅看護概論Ⅰ」および「地域･在宅看護援助Ⅰ」の到達目標と授業計画を作成した。

2022年度入学生より改正カリキュラムが適応となり、後期授業より「地域・在宅看護概論Ⅰ」が展開される。また時期を同じくして、2023年度後期初旬の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」に向けた実習施設との調整を行い、新たな指導体制を構築しながら、「地域・在宅看護援助論Ⅰ」の展開へ進むこととなる。

フィールドワーク（地域アセスメント）演習では、先行研究［4］で作成した教材を用いる他、対象事例の設定やシナリオ作成等教材を吟味する必要がある。また、関わる教員が一貫した方向性で指導するためのプロトコール作成も必須と言えよう。

さらに最終学年における「地域・在宅看護論実習Ⅱ」に向けた「地域･在宅看護概論Ⅱ」、「地域･在宅看護援助論Ⅱ」の授業構想との整合性を確認し、低学年次からの一貫した授業構想として確立を目指した展開が必要である。

また、2年次後期初旬の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」にフィールドワークをとり入れることで、学修成果をその後の各領域の授業および実習にも活用できる可能性がある。

前述したように、看護師養成3年課程の2022年度改正カリキュラムに対応した報告例は少なく［2. 3］、フィールドワークによる地域アセスメントを取り入れた報告［4］は､他に見出せていない。独自の取り組みとなれば、低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」への取り組みによる学修成果や、その後の「地域・在宅看護論実習Ⅱ」および各領域実習にどのような影響を及ぼすのか等、評価や検証の計画を加味した展開が必要である。

今後の「地域・在宅看護論」において、フィールドワークによる地域アセスメントをアクティブラーニング型授業として位置づける上では、地域住民や行政、社会福祉協議会等との連携・協働も視野に入れ、臺ら［12］が提示する、地域・在宅看護活動の一翼を担えるような看護師育成を展望としたい。

2．低学年次の「地域・在宅看護論実習」に向けた授業構想と今後の課題

1）フィールドワークによる地域アセスメントを「地域・在宅看護論」にとり入れ、基礎的知識・技法の習得を含めた段階的な授業構想を基に、学修成果や教授法の検討を重ね知見を蓄積する。

2）フィールドワークによる地域アセスメントを取り入れた低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」の学修成果が及ぼす「地域・在宅看護論実習Ⅱ」および各領域実習への影響等を検証する。

Ⅴ．結論

文献検索・ガイドライン等の整理により低学年次におけるフィールドワークによる地域アセスメント力育成の必要性が示唆された。その上で2022年度改正カリキュラムにおける低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」にフィールドワークによる地域アセスメントを取り入れ､基礎的知識･技法の習得を含めた段階的な授業計画を構想した。

低学年次の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」への取り組みによる学修成果やその後の各領域の授業お

よび実習への影響等、評価や検証が課題である。

文献

[1] 一般社団法人日本看護学校協議会「看護師等養成所におけるカリキュラム改正事業」カリキュラム編成ガイドライン＆地域・在宅看護論の教育内容．2022．閲覧 http://www.nihonkango.org/report/pdf/report_200603.pdf

[2] 水方智子：地域・在宅看護論の位置づけと教育内容～地域を豊かにできる看護師の育成を目指して～．2020.7.11 ～ 2021.3.31，医学書院企画カリキュラム編成準備セミナー資料

[3] 鹿野卓子，大沼由香：短期大学看護学生の地域共生型サービスでの学び－フィールドワークを通して－．伝統医療看護連携研究，第2巻第2号，2021，94-100.

[4] 真溪淳子，髙橋由美：コロナ禍の在宅看護論代替実習においてフィールドワークを取り入れたことによる学修成果．研究紀要 Seiyo 第13巻第2号，2022，113-120.

[5] 棚橋泰之、久保木由美：専門基礎科目「社会保障制度の実際」におけるフィールドワークを主体とした教育のとりくみ．神奈川歯科大学短期大学部紀要，7号，2020，39-42.

[6] 日本公衆衛生看護学会ホームページ、公衆衛生看護とは、用語の定義 https://japhn.jp/wp/wp-content/uploads/2017/04/def_phn_ja_en.pdf

[7] 菅原京子，後藤順子，渡會睦子，他：地域看護診断を主要な目標とする実習の教育方法の検討．山形保健医療研究，第6号，2003，69-83.

[8] 佐々木美佐子，小林恵子，平澤則子，他：大学での保健師教育における地域看護診断の教育方法の構築．新潟県立看護大学学長特別研究費研究報告書，2004，55-61.

[9] 西嶋真理子：地域看護実習における地域看護診断の学習過程．日本地域看護学会誌，Vol.9　No.2，2007，98-105.

[10] 野原真理，照沼美代子，若林千津子，他：本学における地域看護学の授業展開－地域診断の授業方法の評価－．医療保険学研究，2号，2011，87-106.

[11] 清水信輔，田口理恵，榎本晃子，他：看護師の学士過程教育における地域看護診断演習の効果．共立女子大学看護学雑誌，2020，23-32.

[12] 臺有桂，石田千絵，山下瑠理子編：ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア，メディカ出版．大阪市．2022，88-94.

[13] 尾崎章子，佐野けさ美編：地域・在宅看護論，医歯薬出版株式会社．東京都．2021．55-56.

[14] 川原加代子，山田雅子，秋山正子他：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論2，医学書院．東京都．2022．24-24-27.

[15] 金川克子編：地域診断　技法と実際．東京大学出版会．東京．2005.

[16a] 糸賀暢子，元田貴子，西岡加名恵：看護教育ためのパフォーマンス評価－ルーブリック作成からカリキュラム設計へ．医学書院．東京都．2019．1-24.

[16b] 糸賀暢子，元田貴子，西岡加名恵：看護教育ためのパフォーマンス評価－ルーブリック作成からカリキュラム設計へ．医学書院．東京都．2019．110-125.